

令和 8 年度 堺市障害者自立支援協議会

第 1 回 障害児の相談支援部会 議事概要

日時 令和 8 年 7 月 3 日（火） 13:30～15:30

場所 堺市役所 3 階 大会議室

出席者 ◎柏木（浅香山病院）、○里村（堺市立つぼみ園）、山本（ぴーす）、高田美（地域生活支援センターフィットウェル）、高田綾（相談支援室つぼみ/みのりの会）小野寺（VIVO SUPPORT ロベ/みのりの会）、音揃（堺市手をつなぐ育成会）、上田（総合相談情報センター）、石原（中区障害者基幹相談支援センター）、オブザーバー：鷹野（障害福祉部）

傍聴 2 名

（◎部会長、○副部会長、敬称略・順不同）

1 令和 8 年度の委員について

資料 1

2 令和 7 年度の議論の振り返り

資料 2

参考資料 4

参考資料 5

3 令和 8 年度の議論の方向性の確認

資料 3

参考資料 3

・令和 7 年度に出た課題を踏まえ、サービスにつながる前の段階の相談支援の充実を中心に議論を進める。インフォーマルな支援を含めた第 1 層第 2 層の整理や、「あい・ふあいる」の見直しも含めた情報連携方法の検討が必要と考える

<委員ご意見（要旨）>

・あい・ふあいるは、日々忙しい保護者が記録化することに活用の難しさもある

4 意見交換【インフォーマルな支援を含めた第 1 層第 2 層の整理】

資料 4

- ・保護者がどこに相談しても段階に応じた必要な情報につながる事が望まれる
- ・生活場面での困りごとが気軽に相談できるための場所として、親の会等がある
- ・アセスメントを通して個別に助言できる機能、一般的な助言・情報提供ができる機能、保護者が身近に相談できる機能について、各機関が担えることを整理したい

<委員ご意見（要旨）>

- ・障害児通所支援の申請前の発見の窓口における保護者への情報提供や、保護者の障害受容の状況に応じた相談先の充実が課題
- ・保護者の障害受容の状況によっては、親の会にもハードルを感じる場合がある。発見したとき、親が何もわからない段階をフォローする窓口が大切
- ・発見の窓口が最初に気づいたところから、適切な支援につながるまでが重要。つなぎ元の機関は、療育にどのような支援を期待して紹介しているのか。相談支援の立場からは保護者に漠然と「療育を利用すればいい」ということだけが伝わって

いると感じる場合がある

- ・障害児通所支援の申請前に、療育やサービス利用について保護者と一緒に考えられるとよい
- ・あい・すてーしょんを含む地域の相談資源を周知していく必要がある
- ・療育や相談支援専門員とのつながりがあると、支援はすべて担えているという過度な期待を感じる。支援の幅も事業所によるが、虐待や不登校など、障害の観点だけでは支援しきれない問題を抱えている
- ・相談支援専門員を支える仕組みと、相談支援専門員につないで終わりではなく様々な分野の専門機関の伴走がほしい
- ・保護者の気づきから障害受容の段階の支援と、相談支援専門員の底上げは大事